

気温が高くなり、じっとり汗ばむ季節がやってきました。また、日頃見かける虫の種類や数も多くなってきたのではないのでしょうか。屋外で虫を見かける「工場内に虫が侵入してくる可能性が高まる」ということです。

一般的な食品施設、その他工場などでは、何らかの防虫対策を行っているはずですが、しかし虫の侵入を「0（ゼロ）」にすることは難しいのではないのでしょうか。虫は自ら飛んだり、気流に流されたりして工場内に侵入するだけでなく、原料・資材や人に付着して持ち込まれる場合もあるからです。

「パレット」による持ち込みは侵入経路の一つでもあります。パレットは、目視点検だけでは見えない箇所も多くあるため、輸送に使用されるパレットが原因で搬入の際に生きたクモ類、シロアリ類、ハチ類、またはその死骸などをそのまま工場内に持ち込んでしまう事例が多く見受けられます。



清掃不足のパレット

また、パレットを屋外に長期保管している場合、小動物（ネズミなど）の棲家になってしまいうことでもあります。

工場で使用されるパレットは凹凸が多く、清掃がしにくい構造をしており、さらに原料や製品が上に置かれていたり、壁にピタッと隙間が無い状態で置かれていたりするとメンテナンステ不足になりがちです。このような場合、埃や製品由来のもの（粉残渣、紙くずなど）が堆積し続け、そこから虫が発生してしまうという事例が多くあります。

これらのことから、パレットの管理を怠ることは異物混入のリスクを高める可能性があるという認識を持ちましょう。

左の写真はパレットに付着していることが多い昆虫類や動物由来物の一例です。パレットを工場内に持ち込む際や清掃を行う際には、このようなものがパレットに付着していないかを確認して、異物混入の原因をなくしていきましょう。

パレットの洗浄および殺虫を行うには、専用の洗浄機による洗浄または手洗いによる定期洗浄、温度処理による殺虫（冷凍や高温処理など）があります。また、最近では間隙がなく、洗浄もしやすいパレットが販売されているため、用途にあった適切なパレットを選ぶ必要があります。

このように盲点になりやすいパレットについてのご質問等がありましたら、弊社までお問い合わせ下さい。



パレット付着物の一例

今月の豆知識：クモ類とコーヒー

クモ類は清掃が行き届いていない隅まわりなどで年中生息していたり、徘徊していたりするため食品、容器、製紙などの様々な製品に混入してしまうことがあります。そんなクモ類ですが、コーヒー（カフェイン）を摂取させるとでたらめな巣をつくることが知られています。

カフェインはコーヒーから分離され、コーヒー飲料をはじめ、緑茶、ウーロン茶、ココアなどの多くの食品に含まれています。なぜ、クモ類がカフェインを摂取するとでたらめな巣を作るかというと、カフェインによって中枢神経が麻痺し、ヒトで言うとお酒で酔った状態になり、でたらめな巣を作るとされています。この生態に気付いたのは、アメリカのピーター・ウィット氏で自ら飼っていたクモにコーヒーを飲ませた際にでたらめな巣を作ることを発見したとされます。

人間が適量のコーヒーを飲むことは、眠気や疲労感を取り除き、集中力や思考力を増す作用がありますが、クモ類には全く逆の作用になってしまうものも存在します。

このようにヒトが適量飲むと健康によい物質でも昆虫類等を混乱させてしまうものが他にもあるかもしれませんね。



東洋産業株式会社

本社 岡山県岡山市北区新屋敷町3-19-20
TEL 086-241-8080
FAX 086-241-8094

拠点
大阪、姫路、岡山、倉敷、福山、広島
高松、松山、金沢